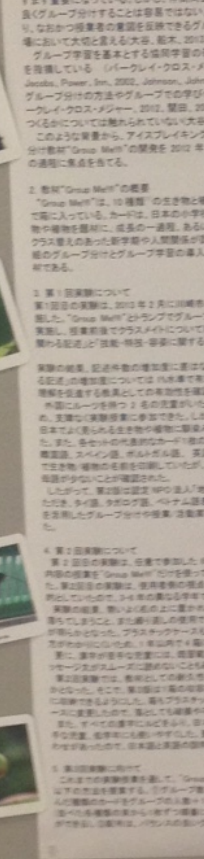

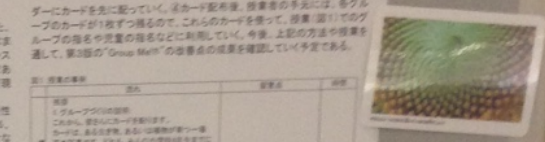

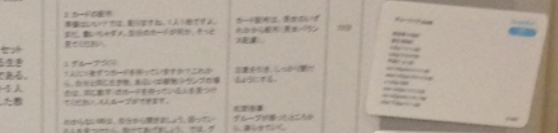

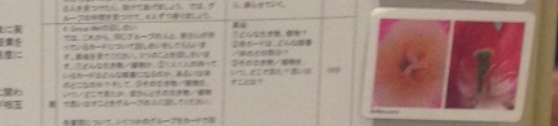

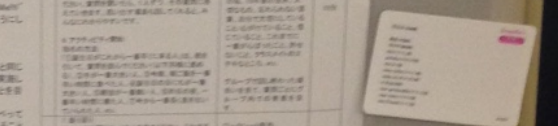

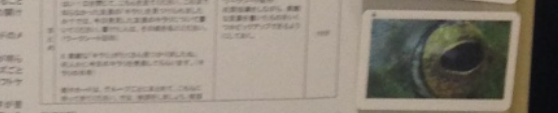

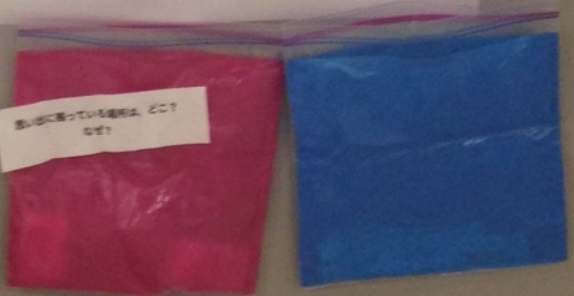

35
Group Me!
思い出に残っている場所は、どこ？
なぜ？

グループ分け教材"Group Me!!"を開発する過程について

大谷 千恵 （ 玉川大学 ）

1. はじめに

グループをつくっての学習や活動は教育のあらゆる場面で見られる。また、近年、多様な児童生徒の増加に伴い、教室の中における人間関係づくりはますます重要になっている。しかし、仲間同士で固まりたがる学習者をバランス良くグループ分けすることは容易ではない。授業を受ける側にとって公平であり、なおかつ授業者の意図を反映できるグループ分けの方法は、多くの教育現場において大切と言える(大谷、船木、2013)。

グループ学習を基本とする協同学習の研究者達はグループ分けの重要性を指摘している（バークレイ・クロス・メジャー、2012、関田・安永、2005、Jacobs, Power, Inn, 2002、Johnson, Johnson, Holubec, 1993）。また、様々なグループ分けの方法やグループでの学び合いについても提案されている（バークレイ・クロス・メジャー、2012、関田、2007）。しかし、最初のグループをどうつくるかについては触れられていない(大谷、船木、2013)。

このような背景から、アイスブレイキングと関係づくりを目的としたグループ分け教材"Group Me!!"の開発を 2012 年から始めた。本実践発表では、開発の過程に焦点を当てる。

2. 教材"Group Me!!"の概要

"Group Me!!"は、10 種類 の生き物と植物のカードが、それぞれ6枚1セットで箱に入っている。カードは、日本の小学校 1-3 年生の教科書に登場する生き物や植物を題材に、成長の一過程、あるいは体の一部を拡大した写真である。クラス替えのあった新学期や人間関係が固定化しつつある教室などで、2-5 人組のグループ分けとグループ学習の導入で活用することを目的に開発した教材である。

3. 第 1 回実験について

第1回目の実験は、2013 年 2 月に川崎市の小学校の 5 年生 62 名を対象に実施した。"Group Me!!"とトランプでグループ分けした2つのクラスで実験授業を実施し、授業前後でクラスメイトについて紹介した記述を「内面-姿勢-態度に関わる記述」と「技能-特技-容姿に関する記述」に分けて比較・分析した。

実験の結果、記述件数の増加度に差はなかったが、「内面-姿勢-態度に関わる記述」の増加度については 1%水準で有意差が見られ、"Group Me!!"が相互理解を促進する教具としての有効性を確認した(大谷、船木、2013)。

外国にルーツを持つ 2 名の児童がいたが、日本での生活経験が長かったため、支障なく実験授業に参加できた。しかし、日本での生活経験の少ないと、日本でよく見られる生き物や植物に馴染みがあるわけではないことが示唆された。また、各セットの代表的なカード1枚の裏面に、9 ヶ国語（日本語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語）で生き物/植物の名前を印刷していたが、日本語指導を必要としている児童の母語が少ないことが確認された。

したがって、第2版は認定 NPO 法人「地球学校 地球っ子教室」にもご協力いただき、タイ語、タガログ語、ベトナム語表記を追加した。また、"Group Me!!"を活用したグループ分けや授業/活動案をホームページで共有できるようにした。

4. 第 2 回実験について

第 2 回目の実験は、任意で参加した 6 名の小学校教員達が第1回目と同じ内容の授業を"Group Me!!"だけを使って 2014 年から 2015 年にかけて実施した。第2回目の実験は、使用者側の視点からの使いやすさを確認することを目的としていたので、3-6 年の異なる学年で各教員が1回ずつ実施した。

実験の結果、勢いよく机の上に置かれると通常のラミネート加工は滑べって落ちてしまうこと、また繰り返しの使用でカードが膨らんで収納しにくくなることが明らかとなった。プラスチックケースも破損しやすく、箱のストッパーの開け方がわかりにくいため、1 年以内で 4 箱に破損や不具合が見つかった。

更に、漢字が苦手な児童には、既習範囲の漢字を使って書かれたカードのメッセージ文がスムーズに読めないことも確認された。

第2回実験では、教材としての耐久性や使いやすさの具体的な課題が明らかとなった。そこで、第3版は1箱の収容枚数を 8 セットに減らし、シリーズごとに収納できるようにした。箱もプラスチックケースからストッパーのないソフトケースに変更したので、落としても破損や不具合を防げるようになった。

また、すべての漢字にルビをふり、日本語指導を必要とする児童、漢字が苦手な児童、低学年にも使いやすくした。更に、外国人の ALT 教員からの問い合わせがあったので、日本語と英語の説明書をつけた。

5. 第3回実験に向けて

これまでの実験授業を通して、"Group Me!!"カードの準備・配布や授業には、以下の方法を提案する。①グループ数に応じて、生き物の種類を選ぶ。②選んだ種類のカードをグループの人数＋1枚用意し、机などに1セットずつ並べる(並べた各種類の束から1枚ずつ順番にとっていくと、ランダムなカードのセットができる)。③配布は、バランスの良いグループ分けのために、いずれかのジェンダーにカードを先に配っていく。④カード配布後、授業者の手元には、各グループのカードが1枚ずつ残るので、これらのカードを使って、授業（図1）でのグループの指名や児童の指名などに利用していく。今後、上記の方法や授業を通して、第3版の"Group Me!!"の改善点の成果を確認していく予定である。

図1 授業の事例

	流れ	留意点	時間
導入	挨拶 1. グループづくりの説明 これから、皆さんにカードを配ります。 カードは、ある生き物、あるいは植物が写った一場面の写真です。どれも、みんなが小学校4年生までに教科書などに登場した皆さんがよく知っている生き物、身近な生き物や植物です。 「これ、何という生／植物かわかるかな？」 「そう、○○○ですね。だから、このカードを持っている人は、同じ○○○の写真を持っている人を探します。」 2. カードの配布 [illegible] 3. グループづくり [illegible]	カード配布は、[illegible] [illegible]	[illegible]
展開	4. Group Me!!の話し合い [illegible]	[illegible]	[illegible]
まとめ	[illegible]	[illegible]	[illegible]

【引用文献】
[illegible]